

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000366		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつづじⅡ		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694番4号		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の表情が変化する自然豊かな環境に位置します。野鳥のさえずりや、川のせせらぎが聞こえたり、運がよければ蝦夷リスが中庭に遊びに来てくれる事もあります。中庭には家庭菜園があり、利用者と一緒に野菜の成長や収穫を楽しんでおります。のんびりと家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとりが、楽しく安心した生活を送れるように努め、地域の方々との交流を深めながら、地域に密着したグループホームを目指し取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000366&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は「自分の親や自身であつたら」に置き換え、利用者が毎日安心して過ごせる居場所となるよう、信念を持った運営を展開され、23年度で10年目を迎え、豊かな自然環境の中に、グループホームやデイサービス事業所と小さな福祉村を形成しています。中庭等を活用したイベントを、地域住民の方々との参加協力を得て開催し、利用者の生活の幅の拡充やサービスの質の向上に活かしています。雪灯りの路のイルミネーションイベントでは、子供たちの協力も得て実施され、冬場の外出しづらい利用者の楽しみの一つになっています。幼稚園児が歌や手遊びで訪れたり、小学校の運動会では、利用者が参加できる種目があるなど、教育機関との相互交流が盛んに行われています。また、茶道、指圧、歌謡ショー、コンサート等の様々なボランティアが訪れ、参加者の心温まるひと時となっています。職員は、作業療法的アイデアを支援に結び付けており、利用者に応じた場面作りのもと、自信の回復による生活の再構築に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を目の止まる所に貼る事により常に再確認し、実践出来るように努めています。また、内部研修の中にも取り入れて実践できるように努めています	運営理念に「地域との結びつきを重視した家庭的な環境の下で」の文言を明示し、5つのポリシーも合わせて標榜しています。理念は社内研修等で確認し、日々実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭りには利用者の家族・周辺の住民・地域の子供達も参加しました。また小学校の運動会・学習発表会に出掛けたり、雪明かりには地域の子供達がボランティアで参加しました。	施設環境を活かした近隣住民や子どもたちと触れあえるホーム行事を開催しています。町内会クリーン作戦の協力や教育機関との相互交流、積極的にボランティアの受け入れをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会議の中で認知症の人の理解・支援についての勉強会を今後も行いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催して地域の方や家族の方々にサービスの実際・評価の報告を行って、話し合う場を設けています。	サービスに触れて頂き、様々な意見を出して頂くよう、行事に合わせて開催するなどの工夫をしたり、家族には毎回、電話で出席の有無を確認しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に必要に応じて電話でアドバイスを受たり、相談をしています。小樽市の開催する勉強会やグループホーム協議会には積極的に参加しています。	利用者の案件についての相談や運営上の対応策について見解を仰ぐなど、ホームの実情を伝えながら、協働関係を築いています。年度初めに市の担当者や消防署員が訪れ助言を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に委員会を開催しています。内部研修で学ぶ機会を作り身体拘束のないケアに取り組んでいます。	ユニット管理者が中心メンバーとなる身体拘束廃止推進委員会を設置し、取り纏めた内容を、社内研修や各フロア会議で学習する体制を整えています。拘束について職員がレポートを作成したり、リスク管理の勉強会を実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の中で虐待防止について学び、正しい知識の習得に努め、実践しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の中で成年後見人制度について学んでいますが、具体的に活用の方はまだありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては、ご家族の不安部分を随時お聞きして十分な説明に心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。面会時に健康状態や日常の様子などお話しして、ご意見・ご要望など聞くようにしています。面会簿の記入欄などに気軽に書いていただいています。	家族が気づいた点を書けるよう面会簿に欄を設けています。家族とのコミュニケーションにより得た利用者の生活歴等の情報は、ケアに反映されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を開き意見交換の場を設けています。また日常の職員との関わりの中から希望・提案などを聞いています。	管理者は、職員からの意見や気づきを、日頃接する中から聞くようにしたり、フロア会議のやり取りの中で提案された内容を、法人の会議で反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境や、職員がそれぞれの能力を発揮できる様に内外の研修などで学ぶ場を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は年間計画を作成しており、職員全員参加しています。他のグループホームの見学や社外研修へも参加出来る様にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームからの見学や、相互訪問等の活動を通じて同業者との交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの入居前にご家族に事前調査表を書いていただき、本人との面談やホームの見学をお勧めし、本人が納得して不安なく生活出来る様に支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを良く聴くようにしており、不安な事や困っている事を受け止め、一緒に解決出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人や家族の思い、状況などを確認し、必要としている支援を見極め、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活場面では、利用者がそれぞれの得意分野で力を発揮して頂き、昔の体験談や生活の智恵を聞き、教えてもらうという姿勢で接しています。人生の先輩として接しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、ご本人とご家族でゆっくり過ごせる環境を作ったり、日頃の様子やご本人の思いなど伝えしています。また夏祭りなど催しにお誘いして家族と一緒に楽しむ機会を設けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもとで、以前からの病院を受診したりドライブや外食を楽しまれたりされています。また、ホームでも馴染みの病院へお連れする利用者の方もいます。	友人や知人、教会の方々が面会に訪れたり、地域交流行事等では、利用者と接する際に気をつけて頂く事を伝え、今後も継続して良好な関係が保たれるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の、個々の性格などを配慮しながら気の合う仲間作りの支援をしています。ホームで共に生活する仲間として関係作りが出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には相談があればいつでも応じますと伝えていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での会話や、本人の言葉や表情の中から思いを把握するように努めています。意思疎通が難しい方は家族から情報を得るようにしています。	思いや意向について関心を払い、できるだけ表出して頂けるよう働きかけています。把握が困難な場合は、表情などで見極め検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族、本人から生活歴をお聞きしフェースシートに記録しています。情報をもとにその人らしい生活が送れる様に支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れ・食事・排泄・水分量・バイタルチェックなど確認し記録します。申し送りや申し送りノートで職員間で情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を踏まえて、関係者で話し合いをし、サービス計画書を作成しています。	個別記録や申し送り等を基に、職員が意見交換を行いモニタリング表を作成しています。加えて家族や利用者の意向をサービス担当者会議で検討し、新たな計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し日々職員が介護記録に記入しています。記載されている内容を把握し、サービス計画書の見直しに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が同行できない通院や美容室などの送迎など柔軟に対応しています。また、宿泊を希望される方にはゲストルームを用意してあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員の方の参加・消防署による消防訓練、ボランティアによる指圧・茶道・歌会や近隣の小学校の行事に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり定期的に受診や往診をしています。何かあった時は対応して頂けます。家族の希望の医療機関は家族対応で行っています。状況によってはホームでの受診も行っています。	かかりつけ医への受診も可能で、受診記録を基に家族と情報を共有しています。内科・脳神経外科・整形外科・歯科の協力医の往診体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師と連携をとり、日常の健康管理や受診の必要性等の支援を行っています。協力病院の外来看護師長にも相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご本人に関する必要な情報を提供しています。入院中はご家族・医師と情報交換を行い退院支援に結びつけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時にご家族の意向を踏まえて、主治医とも相談しながら、ご本人が納得され安心して過ごせる様に支援しています。	ホームは看取りケアを実施しない方針ですが、他の関係機関への移行支援の際は、最大限の配慮をしています。契約の際、家族に説明し同意を得ています。	今後、利用契約時に重度化等が発生した場合の説明を、より分かりやすく家族等に伝えられるよう、確認書等の整備について、検討する意向を示されていますので、その取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修などで応急手当・初期対応は繰り返し学習しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・自主訓練・夜間避難訓練など行っており、隣接しているホームの協力を得られています。	消防署の協力も得ながら、22年度は、夜間想定を含めて3回の避難訓練を実施しています。夜勤専属の職員も訓練に参加し、搬送訓練などを行っています。	地域消防団との連携体制作りに着手し、災害に備えた防災図上訓練を実施しています。地域住民の参加を得た避難訓練の実施や災害時協力者の具体的な役割、火災以外の想定される災害への検討を合わせ、今後に向け災害対策の強化に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として教えて頂く立場と考えながら接しています。お話する時は、聞き取りやすい口調で対応しています。	職員は利用者から、日々学ばせて頂いていると認識し、敬意を持って接するよう努めています。個人ファイルの保管、管理について取り決めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの性格に合わせて、本人が自己決定できるように言葉かけをするように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはありますが、一人ひとりの体調・状態に合わせてゆったりしたペースで過ごせるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分らしい服装が出来る様にしています。理容・美容は本人・家族の望む髪型が出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一諸に調理・盛付・片付けなども行い、同じ食卓を囲んで楽しく食事が出来る様に支援しています。	専門家のアドバイスを得た献立を、ユニットで調理を分担し合い提供しています。季節行事食やガーデンランチ、喫茶コーナーなど工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い記録に残しています。一人ひとりに合わせて粥・刻み食・ミキサー食・とろみを付けるなどの工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ見守りにて歯磨きをして頂いています。不十分な利用者様には一部介助し夕食後は義歯を預かり翌朝お返し致します。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導により気持ち良くトイレで排泄が出来る様に支援しています。	一人ひとりの排泄記録でパターンを把握したり、利用者の表出するサインを見極め支援しています。衛生用品を使用する際は根拠を明確にし、家族や利用者の同意を得て使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を出来る限り確認して記録しています。乳製品を多く摂るように心掛け、体操などで体を動かすようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯は大体きまっているが、その中で自分の体調や気分に応じて、ご本人のペースで入浴を楽しんでもらえるように支援しています。	水・日曜日を除く毎日、午後の時間帯を基本に支援しています。ゆったり感に配慮した入浴に努め、利用者からの話が増す、貴重な時間になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し観察して夜間はゆっくり安眠出来る様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っています、薬の説明書は事前に読んでおり記録簿に綴っています。一人ひとり間違えないように服用の援助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮して頂いたり、楽しみ事（茶道・歌会・喫茶・散歩）への参加が行えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と近隣を散歩や、催し物に参加したり、ご家族の協力のもとドライブや買い物や、自宅で過ごされたりしています。中庭では昼食を食べたり、お茶を楽しんでいます。	ホームの東屋や中庭を活用し、気軽に散歩を楽しんだり、イベントの参加や見学する機会を作っています。行事的外出では、浅利ダムや紅葉狩り、花見に出かけ、小学校の運動会にも招待され、競技に参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望より、ご家族と相談して少額のお金を所持してもらっている利用者様もいます。お金はお小遣いとして事務所の金庫で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人へ電話を掛けたい時はいつでも掛けることが出来るよう、日頃から気持ちを確認しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけは利用者様と協同作業で作って季節感を出せるように配慮しています。不快な音や、光がないようにその都度職員が調整しており、快適な環境作りに努めています。	リビングとダイニングの空間は、利用者が好みの場所で過ごせる広さがあり、窓から自然の景色が真近で感じられる造りになっています。ユニット玄関は、模様入りのガラスドアで圧迫感を抑えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂・居間など自由に使用して頂き、気の合う仲間同士でおしゃべりを楽しまれたり、居室でゆったり休まれたりして過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべくご本人が今まで使用していた馴染みの物や思い出の物等をご持参される様お伝えしています。馴染みの家具や飾り物などを置く事で居心地良く過ごせる様支援しています。	使い慣れた家具や生活用品の持ち込みを奨め、箆箆や収納ケースには、ラベルを表示し、出し入れし易いよう配慮されています。利用者の個性を活かし家族と相談しながら支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の床はバリアフリーで廊下・階段・浴室などには手摺を多く設置しています。身体状況に合わせて肘つきの食卓椅子を使用しています。		